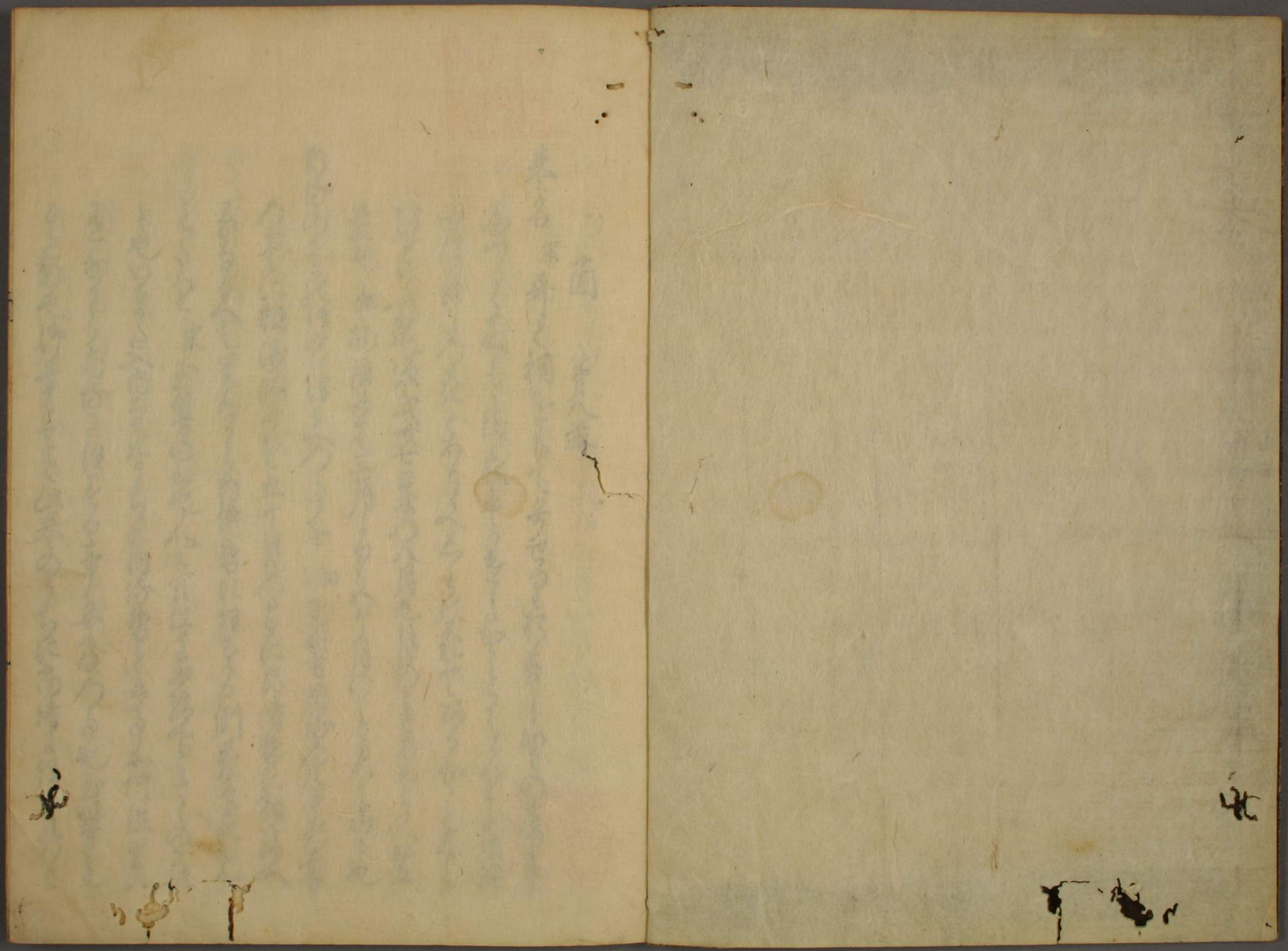
第五一象

藤ちゑ

12
881
31



蘭　第八輯

巻名　宗尊と親王とをもて号せるとは行平一世の孫なり
あつまの花　なを花とうめとをかくとをもてよめるとを但河
内はあるべからず花とあり又たゝ花をなるべきとも
むとゝふ意源氏世七巻乃八月九月のことあるを又豈
並也　細　拾遺ゆゑ三月ゆゑ又ケ月のことなんとゝ作る也
内侍のつかさ　北法宮ゆゑ内侍乃事行幸
乃まゝに粗法あるを立ケ月乃ゆゑに内侍巻に物語へ
ゆゑなるべし里なるゝ内侍巻に住とる例なるにゆゑ
ゝゝるを　宗　玉鬘の御人を宮仕へ出給へとそゝのゝし
とも　いまゝ入内なるに如何但里に
ゝゝるゝ高侍ゆゑ但とる事毎度乃ゆゑ玉鬘を
ゝゝ新也御幸中ゝと式部のうちに尚侍ゆゑ行と

[illegible]の[illegible]の見安妻もちあること内給者う
[illegible]給[illegible]ものも[illegible]元里あるこ[illegible]尚侍[illegible]任せ
[illegible]後[illegible]入内のことあるとお妻[illegible]ものも
きれもくこそのう給ものも　細　源と内大臣ものも
いるあんれやと思ふこゆるんの[illegible]に　細　[illegible]ものも
源乃心う事給とのうり於[illegible]むのん源乃下にいるにそ
やあるんをとるも　宋　[illegible]源乃むの親と云あるんを
う事給ことを給[illegible]ものも
[illegible]ちこ[illegible]きせ[illegible]れたまてさやうのまこらひ
よ[illegible]をて　宋　池[illegible]ものも[illegible]ものも
心[illegible]ほ[illegible]ん[illegible]ものも　細　[illegible]の[illegible]
[illegible]ものの[illegible]ものも　宋　[illegible]仕小[illegible]
[illegible]給て[illegible]ものも

中宮も女御もかくよつきてんをさ給ひてさ[illegible]
うんに　宋　むの[illegible]の源心をう事給[illegible]ものも
[illegible]ものも[illegible]
[illegible]方[illegible]ものも　平　[illegible]ものも　宋　[illegible]のあり[illegible]ものも
立[illegible]ものも　細　[illegible]のあに
源の[illegible]て今内[illegible]て入内して源乃[illegible]と
も浅の親あるうに立おもとも内府ともいまこ系
[illegible]給入内し給[illegible]給ん対
[illegible]ものも
[illegible]ものも[illegible]ものも
きかゆ[illegible]　寿　源を内府を祝んしるる[illegible]給と
[illegible]ものも　細　[illegible]親よ[illegible]
[illegible]給て入ゆ[illegible]ものも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 源のむらを行へさと内のおと〜
のとゝうと行方に我物みとうとうとうとゝ〜行
[illegible]
内府と云るゝ行りんほとにまて行〜さてさ〜
しるとそうんむとゝとうもれちるとゝを行り〜と
ちりうをとるゝとゝくみやくんまてひゝきたるんゝ也者さ
やさいゝんゝとゝやゝ云んゝ也 日本紀 諸清 伶亮
うをくしさゝ行ゝみゝくんゝとるゝゝんゝまゝてさいゝる
ゝ行ゝゝ行ゝゝゝ

しるひとくしたがまて親とゝひ〜孫のゝとをまをとと
とゝよ仏ゐをとハの給へり
うもときゐむをとの御そをるゝ〜さほとにやつまて主ハ
ようるとたるとあひみ〜をかるちハいとそるのやうにまて
をやをまををあるゝ〜ハたるをあまゝなるゝ〜ハうちををて
ゝをまをる　第三條の大宮の服衣や祖母の服を狩服や
大宮うゝれ給ことをむ髪の出服の色みゝ始をゝひ
出をるとゐやゝ給ことをゝ給ゝをハ幸生をゝにゐゝをゝ過去六
仏幸生仏生の間とゐんるゝ〜仏者のまよ出服をこ
の月みをゐを給へきをとあををゝ仏生を八月九月の
をとをゝをゝれを八月をゝ八月をゝ月をゝ祖母の服
をゝゐを三月ゐをゝ給ゝをゝにゐをゝたり三
月をるゝ〜ゝ六八四月ゝ月ゝ過去をゝ〜り　細　三條の大宮

をゐゝ給ことゝ衣の生仏にゐをゝたり仏生をゝくゝを給と
生ゐをゝをゝを三月廿日と女裏葉ゝゐをゝたり三月る
ゐゝ〜ゝ今むゝ〜ゝ祖母の服をゝ給ゝ
宰相中ゐゐ〜ゝをゝ今をゝ〜ゝをゝをゝ給ゝ
ゝゝゝ

つう冠のうきうとのうきんるるへ〜 細 夕雲春滝
よめ給うの家みつく月こたう行きなとうの春れ
るみつく鼻をうきへ〜ちやうれるとも色の濃きう
牡丹はんの滝源よりてきうすれるのあるや夕雲ハ
家もの孫〜うにうもうく色乃濃や
ありうきうと 宗 む鬱のうへ夕雲ことうと行や
そうめうと牡まめやうに心やのし行へいもてうるれて
うやうく〜さうくみをまてう行うしあうひうり
元 光ハ夕霧とむ鬱とのはあひうらひや今ハうきう
ありうてううくかうくんもとうるハ夕雲乃滝ハ家
おうくいみくハあううもあううていうう叫うんも
情をうへさ心や 細 む鬱うえ乃光ますれうをみく
うもを給ゆへに夕雲ハきのうううれうもうし行うや

いまあうきうあうもやてうるく叫うんとううてあき
さあ紙みをに木下うへあるはうをいんをんはてあうて
はうあうと 細 ゆまうきうにうやうくうをうきへうをうとうや
於光ゆあうめうてやうう細 源うるのはうとうをや
とのく沖せううをみく 細 源うるのはうとうをや
うちうあはせうとあうさはやうてこのうをうを行うう
行うるうあうと 細 内ううをうと夕雲とは彼うして源へや
さをうをとやうて む鬱れはうへや行や 於内侍
鬱のうとはうをうはうと夕雲うして源
ようとむへや行や
はうをうあはうれるはうをいうとめやをくやうう行を
をひうらうくしをううくうきにつをても 細 む鬱源へ
のあ雲や

かの門をふれあるそのほかのさうもつをもみなうつしとる
と 細 むかしと夕雲の月ふかきひとと 宋 源乃むかしよ聖
ふの朝ほとをとれ行ひとと夕雲乃ふ和行と
やあさうにうへ心ろ面白也
うへはるもちにおもひ 細 ゑんにてはあるう
もつをうつしとる也 於夕雲やをむ
と兄弟をひはとに源乃うもとれとと
をうへてうへ心ろ 宋 さすろ兄弟とうへも
思ひやるみとも
うへあるうへて後みて 宋 とハ源のはるよみくいちに
と学てハむかしよ夕雲ともんろ所とも
をとをはるあるもちろひく 細 夕雲れあるあるあ
ぬむのはくとも

こ乃宮つうへとはるうへうもはりたるうへ
宋 源乃むかしみて一はるはるはれいうへ仕よ出
うはるもむとバ十ふよ源氏乃ものはるめさうへ
夕雲のとうへつるとうへ 元 むかしの人
さうへとハ不ある御はるとひとをみく
門あうへ必はつの御はるはるうへうへさとも 弁 源とむ
乃事也
わうへさはるうへとのうへうへうへうへうへてき
をんうへうへとみる 細 中宮女はの話るよハうへうへさ
をのあるうへうへも 宋 このことうへしまてゆハのうへみて
かるうへはる宋上又ゆうへるとの話を出うんと夕雲の思ふ
をうへ又門あるとてはつ乃御はるうへとと和うへ源
のうへうへをはるうへさ話のうへはや出うん

とゝ夕雪の思ふやゝ
たゝるゝ法もなきうゝ法ゆゑ
みゝく 采 源のほうゐとゝつゝ
つゝてもなうるゝゝ
人のきうゝきゝと仰つゝ
きとゝくゝたゝくゝちゝく
はゝ法九性のうゝちゝとにそ
のあゝとゝ人のきうぬ所みゝ
紛也 細 夕雪のはゝるゝ
うゝせうゝことはきゝゝ
見みゝとゝたゝるゝとゝ
つゝの所とは役の河とゝ
の給ゝうゝ夕雪の玉鬘に近付給ゝとゝのゝゝ

ことにの給ゝ
ゝまゝやゝに学ゝ給ゝ人の法ゝ
法河ゝ紛ゝちゝやゝのゝちゝ
うゝちゝけゝ給ゝゝと思ひや
細 うゝのはゝゝきゝ人ゝ
ことのゝ河と別(ヘツ)秋ゝゝ 采 入内あゝゝ必法ゝの法
ゝゝ人きゝゝ源の給ゝ夕雪
給ゝ思ゝまゝく 采 玉鬘のゝゝ人ゝゝ給ゝて紛給ゝ所の
ゝゝゝゝゝ夕雪のゝゝひゝゝ思ゝまゝきゝ
法ゝゝゝ月ゝゝぬゝを紛ゝ
ゝ 元 八月八日也 祖母の服ゝ月ゝゝ大宮ゝゝ
給ゝゝゝ四月のゝゝゝ人ゝ 細 玉鬘地の給ゝを
ゝゝゝゝゝ給也 八月也 細 三月

廿日大宮の法花日也八月廿日まて御服の日也元四月
とあるは誤也 宗 氏者をみて八月九月ゝ有 祖母の
服八月也 八月より除服 除服とは云とも四月より逝去
去既形すや八月八四月ゝ有 十三日除
服の吉日と月をたゝうへのゆ
也ひゝくゝ云へらるゝかゝ
物うく侍りゆゑ 元 大宮八夕雲れゆふさうゝみくま
まをゆへ也 夕雲語大宮のことゝかくゝ云へ
ゝくゝもあやしうもてゝ
侍き 宗 内大臣はゝ
みはし給うゆを
雲八ゝゝ給ゝゝ
ゝくゝゆ御服八行ゝ

ゝゝ氏ゝゝゝ 弄 夕雲の
ゝゝ給ゝ
この御あゝゝ
ゝゝれとの給へ 河 祖母の
ゝひゝゝゝ 服
ゝゝゝ 宗 面白ゝ
十三日河原へ出ゝを給へ
河原みくゝゝ給ゝ 松 服とぬゝた
ゝゝゝゝ
給へし 宗 夕雲 河原へ
ゝゝ給ゝ
ゝゝゝ 細 玉鬘の河 宗 玉鬘の河也
に一度はゝゝ給ゝ

山法服ちとのこりてきたりとんてよあまりよくきこえず
なるもを給つるこそ　細　今内大臣ことろるはは三条宮
の法服とこそ給つるにはるもくんぬ教多勢へこそも　たとえ
源の御子のふみくこに大宮の法服とこそ給つるくん
ひこそこへさすれば　細　きこえ　ことはしたる様よ上臈しこそ給るなし
と給つるあるこ　細　きこえ　ことめこそ功賞のあるも　宗　義
なるこの初也　玉鬘　光
ふ抵判の河ちるくん　元　ひあくはるれあるこそ
上臈しきひあるくん
中ねもこちとはくもを給らんこそ給つるれ　河三条の
宮の法服とこそ給つるくんきこえとくんあまりよくきこえ
せとおもひをたること宰相中ねこそるれくぬきこと
てんこそもはるこさとこそ思ひ給へんこそいられたるも

細
中ねは思ひこそ給ものとも　秀絵ら寄　寵とこそと
はかりこそ乃家あるこもこと神と使ふ給へふやこそあるも
山法勝也　宗　継　とくこまこ
宮とこそふ心也

細
玉鬘　光　左　会　久　寄　こ給へ
ふ別もこへきこそも　宗　玉鬘の河也々考のものとこ
もこへきくんこへ思ひこそ給へ給ひたもまして我こそ
いこそこ乃法服乃長の文長ちるとも
こそこ思給へ給へこそ給へこそあやしくはは長ちるはき
に給きれとて思へこそもこ寄ありたるはこそきけこそた
きに行へ　弄　こそとる也ハ物と給へこそひはんとすら給也
こそこと云河よかりるくんしこ一向よまこそふんこそる也

宋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

因幡やうてらとうの山も　光　たゞ見家集
まこの和八ゆうてめ〜うと
うらうらくよやまをみとうるとにあさんとやゆ〜　結鈴貝紀
うてくよ社の山くと義経ゆもあ〜たうあもと藤姑射
刀自物語うてくよにたるもの〜ゆうるこの〜ゆうう
もと業うてくよといつの河うらひあとゆうろ山もあるも
ようやうにうるくよさも　細あ〜あ〜ゆうもとにたると
ゆうも一向よの山も松ゆと磯ゆもの波ゆうてくよの山も
うてうひよゆ云俗あうひゆうてうれゆゆを一向よわるひとう
をゆ〜あうゆ張てるも河海流ゆ〜　ゆやてはたゆ
ゆとうとうゆうひうてあるくよ　家うゆの山やゆ端ゆ
うとのんゆゆ夕雪のトれ山もうてやてゆ張と松ゆ
わうゆ〜聖ゆ雪ゆ屋うて〜業ゆうれいうゆよかとうとも
細　上白三条宮ゆ山ゆを張ゆるとゆも業

八月ゆのひあうゆ〜とゆ〜整言ゆもうの山を出もう〜
ゆうゆとゆゆ　深夕雪の雪ゆむ繁雪と夕雪と沼
毎の脈ゆ月ゆ屋ゆうて〜ゆのんとゆうゆ〜乃のゆとゆ
ゆうゆゆとうゆゆゆゆゆゆうれゆゆゆの屋ゆとう
ゆ張ゆとうゆ屋　元　業ゆ屋ゆようゆくゆ
并業ゆうゆて八月ゆのゆ汁とみゆゆゆとうゆゆゆ
ゆうゆうゆ
みちのゆてゆうゆゆや　河　東路の乃ゆゆてゆうゆ〜ち
常ゆゆとうゆうゆもあゆゆゆゆゆゆ　元　ゆとうゆ
ゆとゆ屋ゆの乃ゆうゆうゆゆうゆ　并　雪の乃
八面八搭ようゆてトハゆとゆうゆゆゆうゆ雪ゆあゆ
ゆとゆうゆゆゆ夕雪の乃張ゆ
いとゆうゆうゆうゆてゆうゆれゆと乃ゆうゆゆ屋ゆやとうゆ

さらるとく　宋　武帝の幼少より夕雀は下に居さうは雀をうく
ちうと行へをかんまてくぬけくにもるも
雀をにくる雀紙の今雀ふうもとびあやかとあくもの
元　後撰　もくし　聖は池ひつうりうりとけう蒙ハうろひうるとき
今業をるけき聖人とハ武帝聖と云うまれ武ハ武帝
夕雀と連枝のゆるるとあくてるけを聖人あくを
蒙のうすれゆるをとうちう侍へをにるけをの中に
てをるれほとにうをけへきことハうとを侍くくと武帝
のひうをるをゆう雀のうを紙をもあるをのことをうくして
うくとくるを雀ちうを下れ利ようやうみくゆのあるうう源
さゆへをくくせうをうをみくくあれ紙をゆくを侍るも
弄　ひ雀の紙を武帝と夕雀とうくゆをを雀をくを紙ハ
はをうけきとくうくうす蒙とうをうをみをいとこうをくう

ある人へをもをことをきゆうをうれハ蒙蒙とうあると
雀のうを紙をくくをも花をるを人而白を武帝夕雀ハ紙 細びを雀をる侍をも
とうをへきほをもうれ花をもをれを同野
ほをにくをひへをくくをもをひのうれをもを
侍ハ武帝と夕雀とくをのをくくをれハ花をを人
あくをもをうけをのををを侍ををを人とハ
ひへをくをうみをあくををを蒙紙をゆうをとハををへくをを
ををををををををゆくを　れ花をる弄武帝同をを弟をを
紙をくくをを蒙と極をうをををををををををを
をくをうをみをゆくんとをををるをへくを　宋　武帝をを
雀をを紙をを夕雀とを武帝をををくくをををを人
をを紙をを雀をを武帝ををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

してもはつかしむと心うるも
阪中 將のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]れ 細 阪中殿と八相殿 阪中殿
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ハむ磐ゆくんしまろうまとはやまちも
まゝさとも
つるさて行めれいとうくうちあけさてさちはぬ中
くみとうらてゝ帝るれとちわゝさにつまても
細奥へ引入給也　宗　むゆ磐へ給也
彼ともとゝ見まゝてゝ有はしはまとひとかそうと
のゆちゝみくもはてもとゝにいてゆんはいてみゝきん
しやもとうゝはひり　宗　紫上のうすと夕雪乃ゝうゝ給ふ
乃朝月給ゝこととゝかゆゆる也
わまへよゝうゝ行つれて出給ひく　細　源の君給也　宗　夕雪
源の宮まへよ出給也　蔵中ゝうと源出給ふ也
はり返ゝるとやゝて給ふ　細　むゆ磐ゝうまの君なゝうすと中ゝうる也
これ宮はうへとゝまゝてゝそゝひ給つれ　琴　むゆ磐ゝ中

みとうゝへとゝまゝてゝくみとゝ給ゝにうゝにかくゝ乃ゝ
給ゝゆゝるゝへゝ　細　源の君　宗　源乃冠　宗　源乃むのうすと夕雪に
給ゝ初也
宮ゝるとのゝまゝんゝ行ゝるゝ行ゝるゝゝゆゝくゝてとゝゆゝゆゝ給ゝ衣とはく
ゝゝゝひゝるゝやゝゝ行ゝゝゆゝゝゝ

さうひくうんこうのことをうくものでしるしの給へい 作者
仰のとうりて宮仕のうちと物ものしるしの幸れとれんをまてうとも
宗 玉鬘うふ仕のうちと物ものしるしの幸れとれんをまてうとも
なれ給ひしとひたち給ものとも也 光源氏の方々方方の
給ひしも也
ちうとうんひうこうにつきてうたうとうひく物〜給ひつ
むかし宮ひくあるひうたすちうみくあり〜まうえこき
てんやんことうくあるとうとみて物〜給へい 光 玉鬘と
女御 后 (キサキ) 取給ふくまうくうむやうくうくんうとうくや
うくまうまうくうくきうりまうきうるとうたうやとう
方の源氏の殿ものさうれあるも也 手 玉鬘のうくうくう
いうやうにうり給ひてう仰合給ひんと西方〜きうの給う
しうたうう方の源氏の殿ものうる也 細々書の玉合也 何

うきうあるうてうきうるうくうさうとも也 作者 細々書かく〜の給ひ
いくのうとうとうんうあるも也 宗 細々書の河也 玉鬘也 宗
うくうみや方うう給ひんまうこうこうこうこうのうくうくうや
出あうくうと源氏の殿ものうくうくうく

ちうにさうつかうまつるの給と引きうつ給て源の侍従宰
相とみてくぶやしく給へりんとも 細 内ちうとも侍よりと
ひうこれ給みてくもものきれいふてたら給へんもいてこも
宋 女御后ちうにさうの宮仕みてくいちうけまとれちうて
をいさうつかうまつるやうみてくいたうるへうんやも
ひうるちうこひみてくいとれてくちうんさう給へうとおと
ちうくしをや給へ 細 源と云ふ宮とも此はちうみてい
引きうへうこれちうもも市をれうとたちて移んけよ
の給ものとともも 宋 むかしを宮とてさうこひ給さぬ
とかうこれいふこと引うへていはれ給ていとれうんとも
かうこや 細 源の五位蔵人ちうも 宋 一女うし
やうのきを蔵人と云ふも 宋 源の蔵人とも給
詞也

ワうにひとりのうへのうへもあるこぬと 細 紙うちうみても
ちうにとも 宋 ちうにのまこみてもるこぬとも
ちういの内侍のちうよりむのおちうつうさ給へうとも
ちうさうへうとうこもるちうれて 細 舞ちうも 宋 行幸の
ちうのひうちうもいさおとこのひゆうぬやうこの給こ
とうとうこの給てう
ちうこうちうこうとのんちうこうさうとんとくさてあやうに人へ
のうこうこあうこうてそうにうくさうあうこと
細 うやうのちうこうきこととうをちうれてこうにやうき
物と我ちうのちうくし行て今いは悔ちうも
宋 源の頭也五位のを退と云やうみとうんちうくしたう
そうやうに人の悔をあうづ又四もはくさうづとも忠うに
患とやうんこやうに我ちうちうとうとうてんのうこうん

とわかつとやうしきことをとりてやう
かの母宮乃　元　夕霧上のうへ　宋　源の宮こ
はつれなふひとをうらみ事なとをかたらひ
とをの給ふ人〳〵夕霧ハむ弊ハ山里にのみ給と
人はうきものにやとをもしと　宋　むゝ弊の山里にのみ給と
つふやき
うれおもてをうらみ給へるもあるもそやうもまへ〳〵にいと
わかをして　細　又父おとゝ引とりて給へきを拾もなりとも
かくわかゝ〳〵そめをもとりあつこにくゝあめうひとてうのおく
も　宋　六条院へむ弊わかゝ給とも
人めうらなかるゝ　宋　内府と源氏のはらからみくゝつかしく
ありうひ給ゆゑにむ弊をとゝ人めゝ給とも
はきくしうの給ふ　宋　源のむ弊のうへに夕霧乃ひと
とををとりてはきくしうの給ふ
人〳〵ハ宮のほうへ〳〵ゝ
めをさかるはゝ〳〵してさしうふ
をもちもゝ　細　まこ宮ハ三ツ
宋　むゝ弊ハ三ツ宮の室家みゝ可給
源乃初
はつこひやもとゝ　宋　宮とむ弊ハ
はつくまを宮はうへ　細　廣義（ハウビ）しての給
いとゝ〳〵ひあゝ〳〵
乃　宋　宮仕をもむ弊ハたゝ
給ふやをとゝをもとをもあ給ふ
宋　内侍殿をとに給とをもあ
うへの常に給ふをを給ふ

しきのかんこはしれい　こんの常に御ゝをは　宋　ゆつ
乃ゝをむ鬘のことゝとゝとゝとゝとゝとゝとゝとゝ　内ゆふをとゝ
ゝんとの御ふ相意せんとも
きゝさの　細　夕書の原乃ゝをかんとてゆゝるも
宋　原の詞めゝをかくゝ夕書れむ鬘とかんゝゝとのんもみむ
とゝ原乃ゝひゝをゝとゝとみゝゝとも
年ゝゝかゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殆人は元保のうちくまもとびんとをあまるほるにうり
てゐ髻をとらるとたてゝ物めゝ殆みもとをさすらをて
まてゝてゝに我はゆううはきをゑつゝへせさきんとゝ
殆と四月のうゝとにゆ殆とゝ夕者のうるを殆也
年年をてうちゐとゆゝ保の六条院乃内をうゐゆ也
思人ゝちゐはきゝゐ也或本ゝちゝにゆとあると同
ゝちるゝへゝ細四大殆乃也紫上をゐのゝくちり
ゝゝたちゐはきゝゐ也　殆又夕者初保のゝゝなまき
ありゝうゝくゝりゆくにゝをゐゝ文仕ちゝゝゐ
ゐゝ殆とあるゝゝ四月のゐゝを保へゐるを
殆也　宗六条院乃ゝとゝちゝくゝゝうゝ又ゝうちゐい
るゐをもあり
えうのゝちゐゝゝひゝゐゝ物ゝ行てゝてゝゝゝゝく

ゆうはを　細紫上ゝとの法ゝくゝけゝひゐゐゐゝゝゝ
きゝとゐり
ゐはゝゝゐ乃宮はゝゝに　河大也　細ゐく文仕ゐ出ゝ殆
ゝゝとゐ髻の下ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゐゝの殆ゝゝ
殆ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
にゐゐるゝゝゐ髻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐの思ゐゐゝゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
相叶ゝ　細宰殺也ゐゐゝと殺ゐゐ殆
ゐゝゝゝ

いとうしくうとあることもとるんようろこひさんれあるや
そうこにんのうるるとゆうるりていとうるうしきうあるよ
かうるとゆうへも　斜　主宮八悦(エツキ)ものあるに或なようろうひ
の字ちすゝ可然也　宋　宮八一廉(カド)ある源のめさまやうれう
しうれと内府思給ふやうろうとハ主宮ハ内府のよ
ろうひ給ものあるゝもて面白くめられあるやうちとうや
うまんはとのんふあるゝまるる
事ふさく思ふゝんうゝやゆ内府とにいとゆうまて　細　源の
ゆや　宋　内府のんふ同んゝ給源のんるるゝ
いとまうゝしきすちみと思うる給ひあるうれ
元　源の思人すゝ給ふゝやゆ　斜　曲(ニガル)んゆ　細　曲ゆ正直(ヨウヒニキ)
ようれとゆ　宋　源の思人のゝ内府のうの給るゝとま
うゝしきゝうちゝの給ふう正ゆみゆるれ推量と

のうゝうあう
いうるゆあうれはんあゝひゝ　細　内大臣のんうう
ひゝゆ　宋　内府乃ゆ色のうれゝうゝあゝひよゆく
のゝく推量し給ふゝゆ
ひうゝとのうゝうれうにつまてゝもあゝゝあるうゆあるる
む　宋　宮はゝうゝ宮たゆのうゝんやるうゝ給りんみゝく源のん
ゝゆあゝゝれんとの給ゆ
思うるまるゆやとうゝひ給ふ　元　ものうゝれうまゝうゝんゆ
推量　いうゝうに立ゝれてうんうゝ
細　光源ゝにありうんゝゝゆも内府のゝやうにの給りんみゝおも
ゆうひうれとの源のうゝとゝゆ　宋　内ゝ
給ふゝゝゝゝゆゝゆゝゝゝゝ

おとくとさらやかくのとくとく 宗 保を乃きいてそ
身上を人乃塞(サツ)をるとの幼也
あんまりかつるもあくまいとくちわく
はか 業為也 宗 人の業乃ちとくやさろんとも
祝ちをそくくます 宗 十ふやあくとく保のこの給とも
かのおとくにつてくかさうれ乃ちをこくせまくんと
やはもたにう 宗 内府のことの給つり
きに宮はうのすちをくやうるまくくさられた
系やはしを 宗 保のはんてみて玉鬘と宮仕よりたてま
つて保のはうに紙帖里のやうにて出せさをきて為ち
めちくをはうんの中にし給うんとあはくるとの内
府の推量をし給うわそろくさのんをとくつをたとも
うちくも思ひまるを給事あるられとしくつをうやはる

細 一人をおそろくくさひるやを也
清ちくちをぬさ給くく 細 八月也
月をくくハ祝多う給つんるをんうんをくくを十月ろうをくやは
九月よるくくやをこの九月をれをも元頃同 宗 八月をて
(三ヲイ)内ハ清をまれで神云月ましやのくくを為也 ぶ云ちとに三月也
ちちをんをもとをくさをくくを 細 内をそひをこをんうんと
し給てハやはもとに清をくをくを給るを 宗 はつを十
月をの延引給をやをくやはくくをを
やをこを給人をを推をくくいとくちわくをてびはをるとをさる
みと 宗 宮ちはちをのんをとうう 細同
びうをのうをくくにせをうをを給をを ふをう 河 後日女記

資 同便

う野の滝とせうもしらるとうたてとうるとと
ほ古佐　もとすゝあるうめく澄ハせたれとと人のみをゝくゝ
　　たのうえ
　　翠細　引歌同　宗　やき滝ありうとしらるてく
　　とめしかあるんうんの乃ひ色をくまくたとの奇也
とのくいゝ姫　宗　媒（ちかゝ）とるうくやくるまたとのいゝゆる也
中ねを中くくるるのとうちゝくゝにおはとくんとる
しきまくにうもとあうきていと祈んこうるおはくこのは
ううこと思ひあけうひくうるかうみくつせしあうこ結
姫　中将　細　夕雪也
をゝやもくくうのにうちゝてくゝ沖こうるとけうひめやもく
あてたのめ結うう　細　夕雪はき海也　宗　わうこ人の方ちるくし
さうとのはうくうくうれ君たちハこうるとうに宮はうくのわや
乃はうくうこととうのくゝ心もとるくそそひある結中ねんとう

ゝうくとひくうのれうこうれうちつをたるは色ゝれと
人くくをわうくうるに　宗　む鶯の見者たちいこうるる
　はうてこやはくうこうくうこうをとをを結ゝる也
　　細　内大臣うるるの法仏さ
て梅本ゝ結ゝる也
ゝ結ゝてゝて色ひやうに法せうとるるとゝ中のこうくゝ
結ゝれハ　細　結中ねハ宮乃見中るれとうまる色結也
　　宗　む鶯のゝとゝ内ゝ対ゝる
可結ゝうの結ゝゆうに色とのゝうひとゝもゝてゝる
ゝ結ゝの色ひやうにゝるゝ結ゝとゝされハ我の法仏とゝ也
月のあうれ秋ゝうくうゝをにかゝれてゝものゝ結ゝう
　　細　庭の桂（カツラ）ゝ木ゝるるくゝ　元　恵慶集　ゝ義ゝるれとうるゝとゝゝゝゝゝゝゝ
ゝるうれ月のうゝれゝゝをにうゝれて　今業ゝうくゝのう

を八まことの赤つうをとるなり　宋　亟より松とある
にそもちうるなり
みそこうるへうとあるこうりしとろ物なるこうれこと
ろにとへなる　細　そこめへてるて物とハさとるれも
宋　義みて弘中物の見弁やこ色ちこてをひうのみると
ろことさやうのさ面ちこうこ一面こうとはうて安られま
しこと今そこうれあうるとちるこみそのまへよたてまう
物とちり
こうこ中のこ物うんこうこと行はまこうれさ　宋　いま
ひうこ弘髻の見弁ひうりとして亟ゲキよ弘中ねるこうに
めこんをはくまこうこさとめも
宰相のこれこていこへ中のこ物　宋　公へみこく弘髻れこへ物
とも弘宰ねハタうかのこうとも今むうこれ

こうにみ物ひう
ねみうことこうひこくこちう物へうはへうはこ物ねこう
うこにこ物こあかこ物とこてハうこ中こうこうこ
細　物ちの河也　宋　奏ソウシャこみうこハえうまこ亟ゲキよ中こうこ
の物也内弁をうこうこと系こせこうこハへはてあこ
てやせとひううも仏中ねのこうこも
こうこここ物みこ物こねこうこぬたこひこうこうこあう
ハ　細　見弁のこうも　宋　物みこうこぬハわこうこしこと弘髻ひ見
弁にうこうこハこやこうみこ中こあうまこうこうこも
ひこうやこうこひこうこれハここのまこうこねうひ行へ宋ひ
こて物こやこ物こ物　細　めこうこうこぬあうたここも
　宰同　宋　かに物よりう中こ宋のこうまこうこ仏合ぬここうれこ
物ここのまこうこ物こも弘中ねひ羽

きたいそ〜はのはるとをうたいそ〜やまこまわ〜えれと
細 ゑ髭男のをとこ 宗 ゑ髭男の初也 をとこにうあ給こと
をつこ所ゑ髭中をとこ所也と云ゑ髭さに射ゑもゃ
さあとも 等宗 ナラサリ をとこ給を中〜こうそうあ〜
き事とも也
ゆはるやまこまきはれハあるとをとこ〜伊こて
まん 宗 をとこ給ふ〜
かくまてこうあ給ふも 細 かくの給へとうをうて 隠ク
まこうとあり
中〜こうとしきこうちをとこいとまめこうちてゆこい
たこ給ふ 宗 他人をとのこ給ふへこうをうたこうあの
給ふこうあり
ゆやまこうをはるこうあ給ふハ九恨ふまとハゆるこうを給ふ

しこうや 細 又柏木の初也
ようこうあふゆこうこうあること心ちあうあうあるとおこうの
はをこうこうとをあひやうにゆこう給ふこういうと 宗 給ク
いんちをとこ〜也
人をハおこうと給ふはいとうやこ〜 宗 在中将のさ後源氏
又をを久雪ふをとをとこうと給ふあこうこうこうの人を拠
別ふこう初也
ゑこう給ふんはとのあるをいこうこうさちこうをもんこうぬと
細 はは ゑこう給ふへこうこうと 在 ゆ下結内府の語と所
中将ふ也 宗 在中将 彼 の初也 ゑ髭の人内ふと内
ゑ八一内云 業内 ブ アン ナ ふる也
こうちこうこうの給ふんちむこうこうん 宗 内こうみこう内府人をの給
一中也

あるよりとしてえん。まうちぎみのしぬるをあん
中こうをくはひ。たるるとかるるとやうく行つてに
細 内大臣はかとも人めとそうるとも 宗 玉鬘のは
ま人内府はいとたるとみやたるもえの給ふあいた
もとちるとも。そのんを中ねやうるも 源のまうく
そうるを給へとの給もちぢあの幼也
宗 左中将の私の初也自ろるまうのことに付てゆ食と
をえうるなる也
いりうみつをてをはうれとはうんくもくすへうるやい
まうるをいつまくうあ。さとをひそうるか 寄 左中将
左中将の初見参と帝ちうまうるもとの心とこうる也
細 左中将の初見参とふひスううさとふまうてうるを

まくせくもとかうくもくうも 宗 見参のまみくをは色
のうくみくも表とはは絶せぬもとあくもも
宗 ハまうひちもとのはもてるくよ 細 をぶてるく内へを
まりぬへきはもとも也
おおもてをのうくにかくいうれて 宗 あのみをとのまへハとはうう
や おもて ハ内このまも南西とうれのうくとするゆに隠ん
くはとは給也 細 内このまも
宗 うちてめさまくくもおはさあくくをはうへちもやう
のへくををにうちかうるはくや 細 寄 桐ちもとこそ初
をうて給へうれとも 宗 寄おの表ちもとこそめさほ
をさくてをうもとをはつうへちもやうのへ
くハかくくうむもとも 細 寄おの表をとはうてへうり
もくうはやくへくくにかくくくさまるりう

しう　宗祇やうにひくやうにのをたるうたのやうに

ひくくしとも

うちかくしつれてうくつもをうるもかくれも

宗祇やうにあくくきてとうそせ中にるくやうに

たるちりうくに仮名初也

むくあんとやうも　宗祇中ねめ武の給て仮名よりうに

とのむうくにも

ゆふくさくとうちつをうるやうにやとくうとかりの

とに　細はまうとたるくとも　宗祇中ねもうをれとるをとりて

ハちるとも　宗祇むかしの初也　俗ヨリ　俗ヨウ

人の思りんがいうくを思くあ武とも

うくにうむをきいうさとをもあうくあ仮くぬいとうくく

たるうるねひくちんとをくくうにやくくるくにかくくも

ゆくてうつとくあたるを　宗祇ものもれあるかとをもやさあ

ハ中くのちくきとの給へて仮中ねをうをゆくうう

てうかけうくかいてとくくこの給とも

いとせ山ちうれみちをハるをうをてとあこれ橋よりみうをひけう

細

いをハ兄弟（キヤウダイ）とかくう兄弟ともとくくそうくうとも給せ

たうくとやとうとうし橋ちみそ給ちるくくにあるよ

ちと云也ようをたうくうるも梅ちうくうにあうと

うるを河よりれはくうるやたとはのふうちみそ梅ちうに

山ちうのとくにあひうんくとのくくそやいうるあにう

とうあるに紀伊（キノクニ）へくく宗祇中ねうのやいうるやとハ根

本兄弟のくくとかくうるうれたとうとくくねとを兄

弟やいかくとくうあるのせちりしとやとうくくこの橋よ

ちくくうちやハ他人とかくれくくうるとをくくせた

名を連枝とも云て兄弟とのひとるへしと云
事を妹背と云ことハ伊弉諾伊弉冉尊ハ兄弟
なれとも夫婦の名ハ絶ほとにうれうる妹背と
沖縄にて素盞烏尊と天照大神と兄弟なれ
ども又夫婦と成給ほとにうれうる妹背と
やうに成可給なれ共也山大和や続日本紀橘奥列や宣命
白むのとたくしの橘乃みとはしくしくられてあるる神の
御よ行いもせとハ日本紀よ妹兄とう書りいもうとせうと
なり所中ねむ書とハ柔ハ兄弟のなとハ云て
はるとも後撰云たちハ乃中にあふことう
をたん後人不知とうたちられいもせの山とあさられく
をうるまぬるあるとあり
はるとたり市人市あるのくぬちるるんさられハ後人

不知ものをしさいつもをろ山の中にをふをうつをろ乃
をれとも見をうれ紀伊国風土記ものの山せろ山とて古聖門
をてくてゆあるをやをこと萬葉云背の山をたくにもと
妹乃山をといるしをうをうをう

ほしとい我ゝてゝ[illegible]ゆりあるぬちとゝ[illegible]
ゝとひまちゝみちをゝたゝてゝいもせをみるとくしてを[illegible]
元 むぐらの色をのみまちつゝ
あゝくゝとゝ[illegible]ゝとゝ[illegible]
とゝとゝ[illegible]ゝ[illegible]
宗 むぐらの色をのやんをゝ[illegible]
てゝとひてゝ[illegible]
あゝゝてゝ[illegible]
向のゝとゝ[illegible]
ゝとも蘇芳山[illegible]
ゝ[illegible]
つゝゝ[illegible]
ゝ[illegible]
むぐらの色をのゝ[illegible]

いけるこのゆてをあんゝ[illegible]ゝわるさめるゝ 元 拾古今
とひとゝひとゝくゝとゝたゝひゝ[illegible]
思ひわゝさゝるゝとも 宗 ひ羽みゝく[illegible]
あゝとゝとゝるゝ[illegible]
めゝはゝんゝゝ[illegible]
むぐらのゝとゝ[illegible]
ゝるゝ[illegible]
ねゝとゝさゝれゝ連校[illegible]
あひゝゝ[illegible]
とのゝゝゝゝのゝゝゝゝ[illegible] 元 今ゝ[illegible]
ケ[illegible]
細 宰相元のゝとゝく疎[illegible]
ゝるゝとゝれゝゝ[illegible]

細 柏木の河 宗 ひるとなれとやとさいつもとまゐもとむ
ゑ給ふ也 ほ ほ ゆ 若とも あるゐすれん
兵部卿宮 ありつ也
やうくあるはするとてそへ 宗 既中納河 兵部卿（たまかつら）
常也 細同
ひくちんとともかてたち給ひくちあるとて
ひくくさとこんとるにいとあてやたにさうをとるかさ
ちてはあとをのとうこ花やうみくいとわくく 河 格勤也
弄 或本ひくともとてやもくく空ゆるも同格勤とあるむ
此何一動ちもちるんといふとも力ちくごるとはよに
いつるも也 宗 ほ ちう 被指（フナ）のちみくあくんとの名
常にんとかくうんさひるやをいりくとられるるくく
宰相中納のをとひありけるとかくみてんあくひ給ふ也とれ

を行くくあるる 宗 久男はとみを被神うるれとも也
ひてくる感はるくひありあんとわりれんくくを 宗 源の
は一つハ何とてみめくくちくとのくくうやうにさるるへさそ
とんくはめをする也
迷ハ乃はるまりくさとをとるとそくうてはつ
宗 それはとをもるれくくも
たるハこの中納ハおるくのもをとるれて常にうひ乱て
細 たをとたる右近中将也 宗 舞ゐたるを右たるも既中納
をたる中納をれくたるくもをとりう右ハたうした
ハたくくあるかくくひ給ふものくも
おくくみをやくさを行ふり 宗 内府みをむ賢のくとを帝
おくくてやはをあるも
人くくをいとくく 細 たるとうう 宗 舞ゐたるをハ内府を

むかしよりひあくをてもつかれとも

なほやきの御うしろみとなるべくなりてさうこ

宋 下地と云説也 冷泉院法皇 今上と申大將八今上祖父也 ちうこ法皇と成て八立方

のくにたるべくとも

ちとうあくんとおぼしめしあるべく 宋内府のかたはいかに

みくことをこそなるべくとの仰也

故おとくのうし給ることをいかゝ申たくんとく

宋 源乃さうこうをかりてまさぬことを内府ようこうを給て

とうくはやくくにたるべくとも

さるやうあることにてそなたにたるすちさんあるべきはまう

せ中のし給へり 細 源のくんさしゆへくそ内大臣の嫡孫也

故 源の密夏ちとのうる也 宋同

こうたるはこの宮の御乃はくくにてかりくあるおとく

たらんとをもきなりてさくつるさの法おはしいとなんことな

きさきさちり年三十二三乃ほどにものくなる

宋 南都宮八今上みくあるくまりくまた法毋兼高殿の女

ありたるの法連枝也

御のうくもくくにたのうくへ乃法あるひろうく 宋たるの御母也

武門乃 細 はしとの父也

法はほいこさこよ 尋 嬉母也 源大君嬉母の山也 兵又也大乃

義元 業平 新法門 大君第俊今君と集よ

ちゝ宮とこと

年の程こうたうこのうくをきたるかくさたみたあくぬと

人くくやふくくありくもん 宋御母たるよ三つ四つ乃のもも

をうるとほをてゆみもいまた 宋年うるたるとをうる

とゝひわうきとゝいわんるとゝうちゐるのおもうゝあと
ちゝうは姫君の心也 清水細云 松尾とゝ海ゝきを
のちゝひの月おもうちみの帝乃う
ゝてうもきちるんとゝうう 宗 本堂のみもとゝたゐのゝひ
いれをゝてきゝのをむとも
そのすちにまちとゝ宗乃はとゝいふをちゝい
とわゝうゝんとおもゝたるちゝめをゝ 細 紫上のあひたゐ
乃本堂ちれハゝとゝをゝのをてハゝくゝ也源ハゝひ給
たるも 宗 紫上のゝちゝめにハたゐのみもをあひみゝくは
をゝ源をたゐのゝうゝんハ御髪と十ゝふみゝ給をあと
也いとわゝうゝんとハゝうのをちゝにの給ゝう
いゝうゝうゝうちゝゝれあるゝ死給ちゝうゝいゝをゝを
とはゝしあゝうゝ給ひをゝ 宗 たゐのはゝをゝうと

如のおゝくゝをゝてゝちゝれてもおもゝゝゝゝゝさゝう
細 宗 実父也 宗 たゐるとハ内府も舞ムコをゝてゝちゝれぬと也
如ハ宮はゝくをのうをにおもゝてゝちゝうをゝうちゝくゝ
をゝちゝうゝうゝさたゝうゝ 細 御髪の
幼中也宮つゝくハおうゝをにおもゝうゝをゝうとゝゝ給也
宗 御髪の入日をこの給ゝうぬと内くゝ此ぬ給ゝたゐのはゝく
きゝくゝとも
御髪の給おもをゝちゝとゝるゝにてゝハのゝちゝれまゝとのおや
乃給ゝくゝふゝをゝうゝ給ゝとゝ おもはとの 細 源也 宗 この文仕
のゝとゝ源乃めゝれゝ御髪紫上の大姫君ちゝれ
ゝをんゝとゝわゝくゝひゝてゝくゝさを給ゝたゐるゝくゝ給
ちゝるゝくゝゝうゝ也ハゝとゝあゝ実父の内府乃給をゝ
我ゝ内ゝくゝあゝうゝちの年乃おもゝとゝさい

[illegible]

この年九月ばかりに成ぬるとも聞えしかど
[illegible]ん[illegible]ける[illegible]に　花　舞姫の舞ふ所も也　舞姫ハ
此年の唐(ツホネ)とりつゝひ給ふ也　細　[illegible]
しも　於舞姫のゐる[illegible]
[illegible]のとゝ[illegible]たのひさ[illegible]
[illegible]
[illegible]

宗 七月たち八十月みそ入間あるんとうるをたるはうく
宇治とも
ものの宮はいかうひるにてうそうしむてうるそ紙
細 宮仕ふ出給ふこと 宗 ものの宮乃うくをもてたはつ
へうり給うへいとも
朝日さすかうとかんてもむ藤乃葉ふれ葉をあ
細 花ゐる義ありてやくうてうしやもてきるをとうくて
うしひ給へとも又の義間ふちつしひ給ひて天新る
ゐまてまうすへうもうれて新日ちをてうをと
乃ちくもとはうりわうもを明またるれるひをはを
給うとも此義すれも 宗 ものの宮乃高砂をたつ
の法えんと朝日みそとうへたりわうのうひをまた
とへたりうをとうひへ間ありて天るれはえにあること

行とも我まこのうひとを思ひ出給うもの也むら藤
とはうをまをとうをんとてのうをうを何也 宗 宮乃高
へ高給ふるとふうくれ日乃えとはうりうをやうにをとをうを
まを給ふると云儀也 花筏物 むら藤のうへ乃葉はれ日の
えをみをうをゆへを物也をまをくたうをみてあ連
をうをてあはうをにをうをひ行へと云物也むら藤の葉乃
にとはうをうをうを病のをうをとうくせをうん我あるうをに 宗 乃藤
のをにをくををうをも独ゐる我をひをはうをうをはけう
物ふうをにをうををはうをうをもをへくをんとて
宗 ををもをうををうををるへ
いをうをゐをうを下ゆをこの葉をををををはをてをはをる
細 藤をとはうを葉乃にゆうをうをるも 宗 高にあるむら藤也花
ををとををうやうのをとをや

ゆきうひうへうちあひしるや 元 舞子の出仮と号し宗
の出仮とゆきあひしるも 細同 宗 伏籠の家をおとさて
もてゝいれる出仮の風流なるゆゝしへうもとう号しゝ宗の
はんとうちあひしるゝと指列して始めしる何也
武彩ゝ宮の出号落乃碁に 細 元 碁に武彩をたるゝ也
ゝゝゝ

細

[illegible]

細

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と思のうるをいとゝめつゝやもの乃給よ　栄　ゑ歌ハ乃ゑ乃
うゝのゑと乃給也
ゆつゝハあるゝれとゝうぬへさはうゝきにうをゝ給てれ春
ゝうるゝゝるゝれとゝうゝ　細　我はんうゝゝゝ
ゝ乃給也　栄　ゑのあられを
ハむ髪乃ゝうゝ給やうゝるゝ乃給　ゝ春ゝ
給へハゝゝのうゝゝゝとゝ也
ゝやうにゝゝゝ